

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名

大分県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	日田市立南部中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	3	1	8	19
生徒数	77	75	91	2	245	

研究の概要

1. 研究主題

一人ひとりに学習内容の定着を図るために個に応じた指導方法の工夫・改善
～習熟度別学習を取り入れた授業の工夫～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

* 1～3年 全教科(全教職員で本研究を推進していくため)

(2) 年次ごとの計画

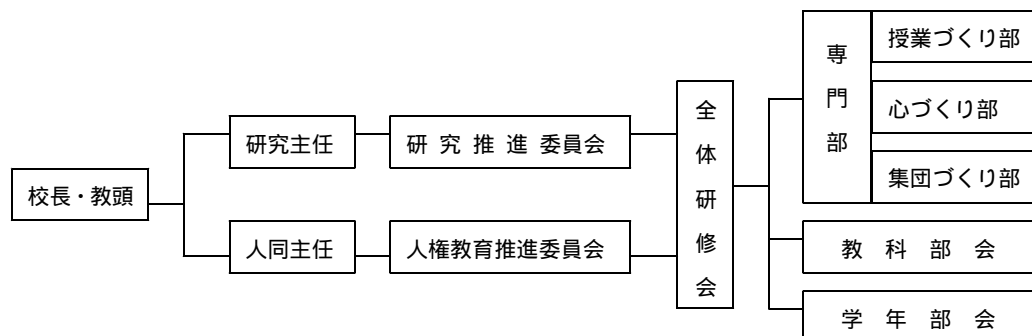
平成14年度	<p>テーマ 一人ひとりに学習内容の定着を図るために個に応じた指導方法の工夫・改善 ～数学科における少人数授業を中心にして～</p> <p>仮説 少人数の特性を生かした個に応じた指導方法を工夫改善していけば、生徒一人ひとりに学習内容の定着を図ることができる。</p> <p>研究の内容・方法 数学科を中心にした少人数の特性を生かした個に応じた指導法。 習熟度別授業、チームティーチングの研究。 班を使った効果的な学習方法。各教科における学力向上の一人一研。</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 一人ひとりに学習内容の定着を図るために個に応じた指導方法の工夫・改善 ～習熟度別学習を取り入れた授業の工夫～</p> <p>仮説 習熟度別学習等の個に応じた指導方法を工夫改善していけば、生徒一人ひとりに学習内容の定着を図ることができる。</p> <p>研究の内容・方法 各教科における習熟度別授業。チームティーチングの研究。 数学科を中心にした少人数の特性を生かした個に応じた指導法。 班を使った効果的な学習方法。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 一人ひとりに学習内容の定着を図るために個に応じた指導方法の工夫・改善 ～学習集団の効果的な編成～</p> <p>研究の見通し 習熟度別学習等の学習集団の編成を工夫改善していけば、生徒一人ひとりに学習内容の定着を図ることができる。</p> <p>研究の内容・方法 各教科の特性に応じた効果的な学習集団の編成。 数学科を中心にした少人数の特性を生かした個に応じた指導法。 家庭学習習慣確立のための指導法。保護者・小学校との連携。</p>
--------	---

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

標準学力検査の結果(偏差値)							
2年		4月	10月	3年生 (4月)			
	国語	51.4	51.9		数学	47.7	48.9
	数学	49.0	50.2				
	英語	43.9	46.5				

・3年生は昨年度数学の少人数授業等を実施した成果が出ている。
 ・2年生については今年度からの実施となり、着実に力が着いている。
 (2年生の10月分は全県一斉に実施した分です。)

2. 今後の課題

- ・今年度は習熟度別学習を授業に取り入れて実施したが、教科によっては取り入れにくい面もあった。課題別やコース別なども習熟度別として実施したが、多少無理があったようだ。
- ・全教科で取り組むためには「学習集団の編成」という視点から取り組むと、共通理解の元で研究が進みそうだ。

学力把握のための学校としての取組

- ・4月当初、全学年で標準学力検査の実施。問題点と具体策を検討。
- ・3年生においては市販の試験問題を購入し、数回にわたり実施した。
- ・2年生においては、10月の全県一斉学力検査、及び3学期始めに市販による評価テストを実施。
- ・教科ごとに単元ごとの評価テスト等を実施。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・教育事務所管内「学校間連携推進地域連絡会」において、校長が管内校長との意見交換を実施した。
- ・市内の「教育センター」の講座で発表をした。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無